

もくじ

中学生の部

最優秀賞	音楽とともに	野田中学校	三年	嘉手川 葉名	2
優秀賞	作られたカテゴリーを超えて	芳野中学校	三年	北方 那奈美	3
優秀賞	正しく恐れる	寺尾中学校	二年	長島 恵斗	4
優秀賞	助け合いの輪	霞ヶ関東中学校	三年	平野 愛佳	5
入選	高校生になる、私からのメッセージ	富士見中学校	三年	宮地 里佳	6
入選	自分で決める将来	野田中学校	二年	河合 舞湊	7
入選	個性の尊重とコンプレックス	野田中学校	三年	久保 美乃莉	8
入選	ラジオを聴くようになって	野田中学校	三年	守岡 珠唯	9
入選	音楽の力で	東中学校	一年	岡田 恭太郎	10
入選	私の野球人生	南古谷中学校	三年	長南 結衣	11
入選	森林を守る第一歩	川越西中学校	一年	長谷部 莉央	12
入選	祖父の挑戦	秀明中学校	二年	岡山 芽未	13
入選	孤独と自立と一人の時間	秀明中学校	二年	秋本 梨央奈	14

高校生の部

入選	自分を考える	秀明高等学校	一年	吉澤 あい	15
入選	限り	秀明高等学校	二年	富澤 心暖	16
入選	「人生は出会いで決まる。」	秀明高等学校	二年	原島 沙英	17

選評	応募作品一覧	1918
----	--------	------

◆ 最 優 秀 賞 ◆

音楽とともに

野田中学校

三年

嘉手川

葉名

かでかわ はな

四年ほど前、世界中で新型コロナウイルスが流行したときのことを覚えて
いるだろうか。今ではほぼ、コロナ禍前の生活に戻っているが、当時はいろ
いろなことが自由にできなくなった。そのとき私は、大好きな音楽が不要不
急となったことにショックを受けた。しかし、音楽はこれをきっかけに無く
なるようなものではなかったのだ。

私は、昔から音楽が大好きだ。小さい子供にはよくあることだが、私自身、
その場で思いついた歌を大声で歌ったり、アイドルに憧れて曲に合わせて
踊ったりすることをよくしていた。今ではバンドに魅了され、気分に乗せて
曲を聴いたりロズさんだりしている。私の性格は飽きっぽい。自分で計画を
立てた勉強も、体力をつけようと始めた運動も、順調に取り組めたことはあ
まりない。興味を持ったこともすぐにやめてしまう。私にとって三日坊主は
良い方なのかもしれない。しかし、音楽だけは違った。音楽だけは唯一、小
さい頃からずっと、「好き」が続いている、私にとって特別なものののだ。

その音楽への想いをさらに強くしたのが、吹奏楽だった。

吹奏楽部として活躍したいと思ったのは、部活動見学で先輩方の演奏を聴
いたとき。中学校に入学する前から、吹奏楽部に憧れを抱いていたものの、
間近で楽器の音を聴いたのは初めてだった。教室全体にいろいろな楽器の音
が広がっていく、不思議な感覚がしたのを覚えている。そして、何より演奏
している先輩方がかっこよかった。私も音楽を奏でる側になりたいと感じた。
楽器を演奏することは、もちろん簡単なことではなかった。私が担当して
いたトランペットは今までに経験がなく、できるようになるまで時間がか
かった。引退した今でも、自分の演奏はまだまだだと思うほどだ。音域はな
かなか広くならず、そこに表現をつけることが大変だった。私が苦手な、コ
ツコツ続けるということは必須で、投げ出しそうになることもあった。

それでも私は、吹奏楽を続けてこられた。それは、音楽を奏でる立場とし
ての楽しさを知ったからだ。練習は上手いかないことの方が多かった。で
も、それぞれの楽器の音が合わさり、自分たちの気持ちも一つになる演奏が
できたとき、抑えきれないくらい、気持ちが高ぶるのだ。この瞬間はいつも
楽しさで満ち溢れている。そして、私たちの演奏を聴いて、良かった、すご
く楽しかった、と言ってもらえることが本当に嬉しい。私たちの音が自分だ
けでなく、聴いている人の気持ちも動かしていることを実感する。この気持
ちは、こちら側に立ったからこそ感じられるものだと思う。この楽しさを
知ってから、私はもっと音楽を身近に感じるようになったのだ。

ウィルスで自粛が続いていた当時、自宅で歌っている動画を投稿する歌手
がいた。この時期に出した曲が評価され、大活躍するアーティストもいた。
私は、このとき音楽の力を目の当たりにして驚いた。音楽を求めているのは、
自分だけではなかった。

今、吹奏楽の経験を経て、このときのことを振り返ると、音楽を通して人
との繋がりを感じたかったのだと思う。部活で演奏していたとき、私は、い
つも以上に周りの人の存在を感じていた。一緒に演奏している仲間、先生、
そして聴いてくれている人と音でコミュニケーションを取り合っているよ
うだった。音楽には、人と人を繋げる力があるのではないか。だから、音楽
が止まることはなかったんだと私は思う。

音楽は今、ボーダレスになってきている。同じものを、国を超えて一緒に
楽しめるのはとても尊いことだと思う。音楽が、もっとたくさん場所にも
広がって、世界共通の言語のようになったとしたら。きっと、人と人との繋が
りも広がっていくはずだ。これから先も、音楽がずっと鳴り続ける世界で
あってほしいと私は願う。

◆ 優 秀 賞 ◆

作られたカテゴリーを超えて

芳野中学校 三年 北方 那奈美

きたかた ななみ

ある日突然、国境が無くなったらどうなるだろう、と思う。実質的に、世界がひとつになったら。差別はなくなるだろうか。私はまた、新しい差別と偏見が生まれると思う。「差別をしたことがない。」私自身、胸を張ってそう言うことができない。

今年の夏、一週間アメリカに行ったときのことだ。私は現地の空港からバス停に向かうために、友達と空港内を移動していた。そのとき、集団の男性たちに

「チャイニーズ。」

と言われた。その言葉を聞いた瞬間、日本人なのに中国人と間違えられたことに、少し苛立ちを覚えた。友達も同じ気持ちだったらしく、

「日本人なのに。アジア差別かな。」

とつぶやいていた。そのとき、ふと思った。中国人と間違えられて苛立ちを覚えた私は、中国人を心のどこかで差別しているのではないか。そう気づいた瞬間、突然自分のことを恥ずかしく思った。差別はダメだと思っておきながら、こんなところで自分の中の差別意識に気づくと思っていたいなかった。

私はアメリカで、たくさんの人と仲良くなった。現地の女の子に手作りのブレスレットをプレゼントしてもらったり、アメリカに住んでいる中国出身の人に海へ連れて行ってもらったりもした。そこで、本当にいろいろな人がいるということに気が付いた。フレンドリーな人もいればシャイな人もいる。笑わせてくれる人、伝わりやすいように言葉を選んで話しかけてくれる人、気遣いをたくさんしてくれる人。アメリカ人だからこういう性格、なんても

のは存在しないことが分かった。これはアメリカだけでなく、どこの国にも通用することだ。日本だって大人しい人ばかりではない。面白い人、酷いことをする人だっている。けれどそれは、日本人だからというわけではない。たまたまひとつひとつの国として分けられているだけで、本質は人間一人一人がいるだけだ。アメリカに行って私は、そう気が付いた。

なぜ人は人を差別するのか。改めて私は考えることにした。私はきっと、人の心に物事をカテゴライズする意識が潜在的にあるからだと思う。男か女か、白人か黒人か、出身はどこか。ではなぜ、カテゴライズしたがるのか。それは、安心したいからだと思う。人は、分類できない曖昧なものに不安を抱きやすいと聞いたことがある。白か黒か、物事の本質はもっと曖昧なグラデーションの上にあるはずなのに、理解しやすいからと無理に区別したがる。だから差別は生まれ続けるし、いつまでも終わらないのだと思う。けれど、いろいろな条件でいろいろな人が分けられていたとしても、世界には同じ人なんて存在しなくて、本当に一人一人の人間がいるだけということを私は改めて多くの人に知ってほしい。自分と考えが合わない人も山ほどいる。けれどそれは、性別が、文化が、人種が違うからというわけではない。人と分かり合うことを、人種や文化の違いで諦めないでほしい、と思う。

ある日突然、国境が無くなることはない。国境が無くなったからといって、人と人との境目が無くなるわけではない。だからこそ、私たちは互いを正しく理解する必要がある。理解しやすいようにつくられたものを過信せずに、一人一人が一人一人と向き合っていく必要がある。

◆ 優秀賞 ◆

正しく恐れる

寺尾中学校 二年 長島 恵斗

ながしま えとお

「ポーンポーン 緊急地震速報です……。」

これは私の母が最も苦手な音である。先日八月八日に日向灘を震源とするマグニチュード七・一の大きな地震が起きた。テレビの速報が流れ、私は身構えた。同日夜に南海トラフ地震臨時情報が発表された。このような発表を私は今まで聞いたことがなく、何のことなのか理解できず恐怖を感じた。

私は東日本大震災の六日後に生まれた。震源近くの東北地方と比べたら私の地域の被害は大きくなかったが、母はおなかの中に私を抱えていたためこの未曾有の出来事に初めて死を感じ、そして今でも地震が何より恐怖であり、冷静さを失ってしまうようだ。

皆さんは「レジリエンス」という言葉を知っているだろうか。それは主に「回復力・復元力・弾力性」といった意味をもつ。そして災害が起きたときのための対策や対応力、被災してしまった後の復旧・復興力などを指す「災害レジリエンス」について、南海トラフ地震臨時情報が発表されてから私は深く考えた。

南海トラフ地震臨時情報が発表された翌日、普段どおりに家族と買い物に出かけた。夜遅い時間であったがいつもより買い物客が多く感じた。私はすぐに「買い占め」という言葉が頭に浮かんだ。水や米、更にトイレットペーパーなどを大量にカートへ積んでいる人を見たからだ。私たちはいつも買う水をカートに入れようとした。一人の客が急に割り込み、水を四ケースほどカートに積んだ。その人は気まずい顔をして去っていった。災害が多い日本にとって非常時に役立つ備えは必須だ。しかし間違った備え方をしている人がいることも事実。

四年前、世界中に猛威を振るった新型コロナウイルス。私はこのとき一部の身勝手な買い占めの怖さを初めて知った。入手しにくくなった必需品を買

い占めて高値で転売する人、必要分以上に買い占めをする人がいたため本当に必要な人のもとに届かない状況が長く続いた。

コロナウイルスの影響はさらに広がり、通常の生活からかけ離れた日々を送っていた。一時的にトイレットペーパーの物流が止まり、店からトイレットペーパーが姿を消した。数週間ぶりに店頭でトイレットペーパーを見つけた時の安堵の気持ちは今でも鮮明に覚えている。この出来事でもう一つ今でも鮮明に覚えていることがある。それはスーパ―に居合わせたおばあさんからもらった大切な教訓だ。このとき私は久々に見たトイレットペーパーをもう一つ本当は買ったかった。だがニュースで買い占めをやめる呼びかけを見ていたから、母に「次に必要な人のために一つだけ買って帰ろう。」と言った。それを横で聞いていたおばあさんは「僕偉いね、それでは私も一つだけ買って帰るわ。」と声をかけてくれた。私は今でもこの出来事を忘れずに行動している。助け合いの大切さを教えてくれたエピソードだった。非常時、それは不安や恐怖から冷静な自分ではいられず思いやりの心より自分勝手が出てしまう。こういう時こそ正しく恐れることが大切だ。まずは非日常をしっかりと捉えて過度に騒いだり恐れたりしない。そして常に思いやりを忘れない。人の心を温かくできるのは人の心だ。

「レジリエンス」それは逆境に置かれたときに折れない心や立ち直る心、うまく適応できる能力のこと。皆が自分勝手な行動をしていたら、さらに人々の生活を脅かすこととなるであろう。これは天災ではなく人災だ。小さな子どもや弱い立場の人を守るために今一度レジリエンスを考えてみてほしい。私は逆境に置かれたとき「レジリエンスの精神」で何度でも立ち上がる。この私の思いが一人でも多くの人々へ伝わることを願っている。

◆ 優秀賞 ◆

助け合いの輪

霞ヶ関東中学校

三年

平野 ひらの
愛佳 あいか

皆さんは「助け合いの輪」という言葉を知っているだろうか。国語辞書で引いても、インターネット等で調べても言葉はのっていないが、なんとなく意味は分かるだろう。輪は丸く、どこでも等しくつながっていることから、ある人が起こした助けが次から次へとつながり、結ばれていく、という意味だ。

中学二年の夏、学年行事の一つである校外学習で東京に行った。人が混み合っていて席に座れない電車の中、私は次第に体調が悪くなっていった。「うう、気持ち悪い。」鎖に繋がれているかのように、体がどんどん重くなる。駅に着くまで我慢していたが、限界に達し、私は意識を失い倒れてしまった。この日、私は「助け合いの輪」を経験することになる。仕事よりも私を優先し、心配してくれた一般の方々。休憩所を探したり、車いすで運んでくれた駅員の皆さん。お茶を買い、面倒を見てくれた先生方。次から次へと人が集まり、「手伝えることはありませんか？」という声が聞こえた。

「愛ちゃんの足が電車と駅のホームの間に挟まっていたんだけど、通りすがりの男性が駅の方に移してくれたんだよ。」
私が意識を失っている間、何が起こっていたのかを友達に全部教えてくれた。その後も帰りの電車では「大丈夫だったの?」と声をかけてもらい、席を譲っ

てもらったり、「助け合いの輪」を感じる日となった。

周囲の優しさと温かさを学んだとともに、「助け合いの輪」は自ら行動を起こさなければ始まらないのだと実感した。

私はこの日、たくさんの人に助けられた。今までも、そしてこれからもいろいろな人と出会い、周りの支えがあって生きていくと思う。支えの中で生きていくからこそ、自分も助けてもらった分を返さなくてはいけない。迷子になった子ども、道の行き方がわからない人、落とし物をした人。私たちの周りには助けを求めている人がいる。自分が助けてもらったように、私も相手の手助けをしたいと思った。

行動を起こすには少しの勇気が必要だろう。ただ、これだけは知ってもらいたい。あなたが起こした行動は、その人の支えとなるということ。そして、あなたがその人を助けたとしても、どこかで必ず「助け合いの輪」の一部になるということ。

私はこの言葉が好きだ。たくさんの人に知ってもらいたい。そして、「助け合いの輪」が広がるために、私も声を掛ける一步を踏み出したいと思った。地球を包み込むような大きな助け合いの輪ができたらいなと思う。

高校生になる、私からのメッセージ 富士見中学校 三年 宮地 里佳 みやち りか

令和四年、四月。県民から、一件の苦情が寄せられた。そのたった一件がきっかけで、埼玉の県立高校「共学化」議論が始まった……。

皆さんは、高校の共学化についてどうお考えだろうか。「絶対に共学化すべきだ」「共学・別学の両方から高校を選びたい」様々な意見があるだろう。

しかし、私は共学化に反対だ。

私がこのことについて考えたのは、ある出来事がきっかけだった。知り合いが、共学化反対の署名活動を行っていたのだ。そのとき、私は初めて共学化問題を知った。なぜ、急に共学化の話が……？

その疑問に答えてくれたのは、偶然見ていたニュースだった。それによると、「埼玉県立の男子校が、女子の入学を拒んでいる。これは、女子差別撤廃条約違反ではないか。」という一件の苦情が原因だという。ん？差別？私はこの苦情に違和感を覚えた。女子も入って良い高校なのに拒んでいるのなら、それは確かに差別だと思う。しかし、男子校は「男子のみ」を生徒として受け入れている学校である。女子が入れないのは当たり前だ。その男子校は、規則に基づいた募集をしているだけであって、「拒んでいる」という表現は、少し違うのではないだろうか。

この苦情に対して、ある教授はこう述べている。「公立校は憲法の男女平等の理念に照らして共学が前提」果たして本当にそうなのか。全国では、すでに約九十二パーセントの公立が共学である。が、共学だからといって男女

平等が実現されているとはいえない。そもそも、「平等」とは何だろう。最近はずぐに「これは不平等だ」と言うが、何でも画一化させてしまうのは、平等とは少し違う気がする。それぞれの個性が発揮できなくなってしまう恐れがあるからだ。

私は最初に述べたとおり、共学化には反対だ。しかし、絶対に共学化してほしくない、というわけではない。もし、定員割れをしている別学の高校があるのなら、その高校は共学化しても良いと思う。県の教育委員会が行ったアンケート結果を見ると、「共学化に賛成」と答えた中学生は十八・七パーセント、高校生は七・八パーセントと、どちらも二割以下にとどまっていることが分かる。また、私の知り合いのように、別学の存続を求める意見書の提出や、署名を行っている人は大勢いる。別学が良いと言っている人がたくさんいる以上、何か問題がない限り共学化を進める必要はない。これが私の考えだ。

私は受験生であり、志望校は全て女子高だ。だから、この「共学化問題」は、他人ごとではない。「男女平等」の観点から議論するのも良いが、大人の考えだけで話を進めるのはやめてほしい。実際に高校に通う、私たちの意見によく耳をかたむけることが、最も重要なことではないだろうか。

一件の苦情から始まったこの議論。視点を変えて、もう一度よく考えてみてほしい。

◆ 入 選 ◆

自分で決める将来

私の将来の夢は、歯科衛生士になること。沢山の人の歯をきれいにして、患者さんの笑顔を見たい。そんな理由で決めた将来の夢。しかし、本当にこの職業が私に合っているのか。本当になりたいと思っっているのか。自分自身に質問をしてみるが、自信を持って答えることができない。

私の父は歯科医師。私の姉も歯科系の職業に就くために大学に通っている。三人の姉は将来の職業がもうすでに定まっている。年の離れた末っ子の私は、どんなことをするにも、姉を真似てきた。洋服だって習い事だって。私は姉に憧れているのだ。

小さい頃から父が経営する病院に通っている。普通だったら触ることのできない器具に触ったり、理科の授業のような実験をしたり、歯科衛生士さんが実際に着ている白衣を着てみたり。父は、私が病院に行くたびに何かしら体験させてくれた。私の歯の治療も父がしてくれる。歯科衛生士さんに呼ばれ、私のところへ治療をしに来る父。いつも私にちよっかいをかけてくる。しかし、治療を始めると切り替えて、キリッとした顔で仕事をこなす。その時、私は父に憧れるようになり、歯科系の仕事に就きたいと思うようになった。

そして、姉も今は歯科医師になる直前。姉が一生懸命勉強している姿を、私は近くで見てきた。すごくカッコいい。

家族に憧れ、興味を持った職業。歯科医師、歯科衛生士。

しかし、私の好きなことはダンスをすることである。病院で椅子に長時間座る職業とは逆に、動く職業に就きたいという気持ちもあった。まだ先の話

ではあるが、姉の職業が決まったことから焦る気持ちがあった。年の離れた自分だけが置いていかれた気分になった。

ダンスは、人に感動や勇気を与えてくれる。私はバトンドダンスやジャズ、チアダンスやヒップホップなどいろいろなジャンルを踊ってきた。難しいことは沢山ある。嫌になる瞬間もある。それでも私がダンスを続けたいのは、「好きなことで人を笑顔にする」という目標があるからだ。

この二つの気持ちが交互に重なっている。「本当はどっちがやりたいの?」と自分自身に聞いても、答えられないまま悩み続けてしまう。私の場合、なりたい職業が極端に分かれているため、余計深く考えてしまう。そんな時、母が私に言葉をかけてくれた。

「仕事は自分が続けていけるものを選ぶといいよ。楽しくなきゃ続けていけないもの。」

母の言葉から自分の気持ちを振り返ってみた。確かに、私は父や姉に憧れている。歯科医師や歯科衛生士はともにかっこいい。しかし私が本当に憧れているのは、歯科医師や歯科衛生士に対してではなく、父や姉の「一生懸命に取り組む姿勢」なのではないかと思った。母が言っていたように父や姉は、自分に合ったものを選択している。私は自分の意志ではなく、流されてしまっていた。

悔いのない人生にしたいからこそ沢山悩みたい。自分で自分をカッコいいと思えるような仕事をしたい。これから沢山悩んで満足できる仕事を選びたい。そう私は日々考える。

野田中学校

二年

河合

舞^{かわい}渥^{まいり}

個性の尊重とコンプレックス

野田中学校

三年

くぼ 久保

みのり 美乃莉

コンプレックスとは、自分自身に対し自信がない部分だと思っています。私も、どうしても周りの人と比べてしまつて気分が下がつてしまうことが多々あります。

私の周りには、いろいろな人がいます。肌の色の違いや、身長の違い、髪質の違いなど、みんなそれぞれ個性があつてすごくいいと思います。私は、以前SNSでインフルエンサーの方の肌の色に対するコメントを見たことがあります。そのコメントに対してすごく傷ついたら、インフルエンサーの方は返信していました。コメントをした方は悪意があつたのか分かりませんが、私は、そのコメントは個性を認め、良い意味でコメントをしたのだと思いました。どの肌の色に憧れているかは人それぞれで、良い意味で言った言葉が悪い意味に聞こえてしまうことがあるのだと考えました。私にも髪の毛の癖があるというコンプレックスがあります。出かける日は、髪の毛の癖を目立たせないために準備に時間をかけていました。ですが、汗や湿気で元通りになつてしまいます。だから、ストレートヘアーが羨ましいし、髪の毛に対し指摘されると傷つきます。ですが、パーマをかけて髪の毛の癖をつけている人もいるし、縮毛矯正をして、髪の毛をストレートにしている人もいます。私は、それを知ったとき自分の憧れていた「ストレートの髪」が全てではないことに気づきました。私は、個性もコンプレックスも表裏一体だと思っています。人は自分がないものを持つている人を羨ましく思つて、他人と比較し足りないことや、自信がないことをコンプレックスだと思うことがあります。個性もコンプレックスも表裏一体ということは、価値観の違いによつて、自分が相手に対し褒めた言葉だと思つていても、相手によつては嬉しいと思う人もいれば、傷つく人もいるということです。ですが、自分が自信を持ってなかった部分を褒められることで、自分に自信を持てるようになると思

います。そこで、相手が自信を持てる声掛けをするために私が考えることは、三つあります。

一つ目は、相手の性格をよく知ることです。相手が何を言われて嬉しいのかを理解し、どのようなことを言われると傷つくのかを理解することが大切だと思っています。相手のことを完全に理解することは難しいと思いますが、理解しようとするだけでも相手の気持ちは変わると 생각합니다。

二つ目は、前向きな言葉を付け足すことです。例えば「背が高くていいね。」「背が高いね。」どちらも褒めている言葉ですが一つ目の言葉のほうがより良く聞こえると思います。自分が当たり前に褒めている言葉だと思つていと、前向きな言葉が抜けていても平気だと思つてしまうことがあります。ですが、人によつて言葉が足りないことで良い意味ではないと勘違いしてしまうことがあります。褒めている言葉であつても、前向きな言葉をつけるだけで相手の気持ちはよりポジティブになると 思います。

三つ目は、偏見を持たないことです。人に憧れて自分のことが嫌だな、などと思うことがあるかもしれません。ですが、みんな価値観が違うことを思い出して、嫌だなと決めつけるのではなく、その部分を認めてくれる人がたくさんいると考えることが大切だと思います。そうすることで、違う角度で物事を見ることができて、相手に対する声掛けも今まで以上に良くなると思います。自分自身もより自信がつくと思います。

人によつて考え方は異なるので、全員が納得しないのは仕方がないことかもしれませんが、相手の気持ちは考へて行動し、傷ついたときには相手に伝えることが大切だと思います。互いに認め合い、自信に溢れた世界になるとを祈っています。

◆ 入 選 ◆

ラジオを聴くようになって

野田中学校 三年 守岡 珠唯

もりおか みゆ

ラジオ。この三文字を聞くと少し古臭いイメージが浮かぶかもしれない。私もつい一ヶ月前まではそうだった。しかしそんなことはない。ラジオは、私達の生活をより鮮やかに彩ってくれる素晴らしいものである。

ちょうど一ヶ月前のことだった。期末テストのテスト週間で、私のスマホは両親に没収されてしまった。普段学校から帰ってくると夕食、風呂などを除くとずっと見てしまっている。三年生なのにインターネットにうつつを抜かしている場合ではないと没収されてしまったのだ。そうすると、勉強以外にすることがなくなってしまった。私はとても暇だった。普通だったら勉強をするはずが、私はどうにかして部屋の静寂を破りたかったらしい。私の手は去年技術の時間に作ったラジオに伸びていた。その技術で作ったラジオは、持って帰ってきてからあまり使っていなかった。ちょうど良かったので使ってみることにした。ダイヤルを回すとジジ、ジジとノイズが鳴る。ちょうどいいところに止まると、ラジオのトークが流れてきた。初めてしっかりラジオを聞いた。それは、私が思っていたようなものではなかった。全国から届くお便りや、悩みはどれも新鮮なものだったり、確かにと思えるようなものだけだった。静かな部屋で流すラジオは、私の心を穏やかにしてくれる。素晴らしいものだと思えることができた。

次の日から、夜に自室でラジオを流すようになった。わざわざ今日はどん

なラジオが放送されるのか調べるような性格ではないので、その日やっているラジオを聴くことも醍醐味の一つになった。その日のその時間にやっているよくわからないラジオを聴くのは、新しい出会いのようでとても楽しい。ラジオを聴くようになってから見つけたラジオの魅力がある。

それは、いろいろな種類の情報に触れることができることだ。例えば最新のニュースや高速道路の渋滞情報、アイドルのアルバムやライブの情報など普段耳にしないことも知ることができる。知ってなにかに活かすことは少ないが、学校から帰ってきて疲れているときに聞き流せるような、のんびり聴けることがいいと思う。また、聴いているとき新たに会おう番組がたくさんある。特に、トーク番組では視聴者からのお便りなどで繰り広げられるお話が親近感が溢れていて、夜寝る前に聴くのがぴったりだ。

ラジオを聴くようになってから、普段の生活に楽しみが増えた。のんびりできる時間ができたことによって、心に余裕を持つこともできるようになった。ラジオ一つで日々の生活が豊かにより鮮やかになった。

新しいことをやってみると、思いもしなかった景色や楽しさがあることがわかった。まだやっていないことや、少し興味があるもの、そうでなくても、知らなかった景色へ一歩踏み出せるようになりたい。

◆ 入 選 ◆

音楽の力で

東中学校 一年 岡田 恭太郎
おかだ きょうたろう

音楽には、人の力を大きく動かす力があると思う。そう強く感じさせられたのは、先日、家族と買い物に出掛けた時のことだった。

スーパーマーケットの中に入ると、よく店内放送が流れている。よく聞いてみると、元気のよい、楽しいBGMが流れていることが多いと思う。この曲を調べてみると、気持ち良い和音で構成されており、ハ長調などのなめらかな調が使われていることが分かった。

このようなBGMを使っているのは、実は店のねらいらしい。気持ちよい曲をきくと、気持ちも軽やかになり、ゆつくりと買い物を楽しむことができる。買い物客にとってもうれしいことだ。そして、店にもうれしいことがある。ゆつくりと買い物をしてもらうことで、売り上げが曲を流す前に比べ三十八パーセントも上がったらしい。曲を使って、みんながうれしいスーパーマーケットをつくっているのだ。

しかし店もずっとこのような曲を流してはいられない。閉店時間が近づけば、客には逆に帰ってもらわなければならない。店員が客に直接「閉店時間なので帰ってください。」と伝えるのは、店員にとっても、客にとっても、少し嫌な気持ちになるだろう。そこで、音楽の力を使っているのだ。閉店間際に、水の中にいるような、少し寂しい曲を流す。すると「帰ってください。」と言葉で言わなくても、誰でも一瞬で、「そろそろ帰らなければ。」という気持ちになる。言葉がない中、一瞬で物事を人に伝えられることは、音楽の大きな力だと思っている。

この、一瞬で人に物事を伝える力は、時として人の命を救うことができていく。例として、緊急地震速報のBGMを挙げたい。この曲には、人を不安にさせる音をこれでもかと詰め込んでいる。この不安にさせる音のおかげで体がすぐに動き、守られた命も多くあったはずだ。音楽の力の中には、きれいな音で感動や軽やかさを引き起こすだけでなく、不安になるような音を

ざと出し、我々を守ってくれる力もあるのだ。

さて、ここまで音楽の力を紹介してきたが、私はこの音楽の力が広まれば、もっと世の中は良くなっていくと思う。

例えば、どこかの地域や国が、大きな災害にあってしまったと考えよう。建物は崩れ、大切な人を失い、人々の心には大きなヒビが入っている。建物などは、お金や努力で少しずつ復興できるかもしれない。しかし、人々の心は建物のように治らず、避難後も悲しみの涙は止まらないに違いない。そんな中での音楽の力は、とても大きいだろう。音楽の力が人々に安らぎを与え、安らぎが勇氣にかわり、みんなが励まし合って、悲しみをのりこえることができるはずだ。

また、言葉が通じなくても、閉店のBGMや、緊急地震速報のBGMのように、音楽は様々な思いを伝えることができる。このような思いを伝える力は、全世界の人の心を豊かにすることができると思う。

もし、音楽なんか興味ないと音楽にあまり耳を傾けてこなかった人がいたら、そういう人にこそ、たくさんの音楽に触れてもらいたいし、音楽の力というものを感じてもらいたい。音楽の力は幅広い。言葉がなくても思いが伝わり、その想いを心に響かせることができる。

無限にある音楽をきいて、その曲、一曲一曲にこめられた作者の考えや、音楽のメロディーや調にかくれた力を感じられれば、もっとその人の心には勇氣や温かさがうまれるはずだ。

たくさんの人の心が豊かになるために、これから世界で音楽がどんどん使われていけばいいと思う。人の心が豊かになれば、世界はもっと一つになっていけると思うからだ。音楽によって、世界が大きく動く日が来ることを願っている。

◆ 入 選 ◆

私の野球人生

私は、野球が大好きだ。野球を観ることも、実際にやることも大好きだ。たまに、

「女の子で野球をやっているなんてすごいね。かっこいいね。」

と言われることがあるが、私は全くそうは思わない。なぜ、女の子だからすごいのか。好きでやっていることに、性別は関係ないと私は思う。

小学校三年生の時に弟の影響を受け、遊び半分から始めた野球も、今年で六年目になる。最初は同じチームメートの友達と声を出し合い、泥だらけになりながらも一日中練習するということが、ただただ楽しかった。だが、高学年になると、チームが「勝ち」にこだわるようになり、練習がより一層厳しくなったり、レギュラー争いが激しくなったりしていった。そんな私たちのチームの目標は「考える野球をしよう」だった。「考える」とは何だろう。監督やチームメートのみんなには悪いが、私はこの「考える野球」についてよく理解していなかった。

高学年になって少し経った頃の私は、自分のプレーに自信を持つことができず、練習に行きたくないと感じるが多々あった。打席に立ってバットを振っても、ボールにかすりもしない。ボールが飛んできても、上手くさばけない。唯一自分の得意分野だった走塁では、得意だからこそミスしてはいけないというプレッシャーがかかり、積極的に走れない。自分がチームの足を引っ張っていると思うと、出そうと思っても声が出ない。なにもうまくいかず、悔しくて毎日泣いた。

だが、そんな私を変えてくれたのは、私がミスをしたらカバーをし、励ましてくれたチームメートのみんな、練習や試合でたくさんアドバイスをくれたコーチたち、家に帰ったら私のプレーを褒めてくれた母、毎晩仕事が終わ

南古谷中学校 三年 長南 結衣

ちようなん ゆい

わった後素振りに付き合ってくれた父、そして、「もっと自分に自信持っていんだよ。」と、ずっと声をかけ続けてくれた監督といった、自分の身の回りの人たちのだということに気づいた。

そこからの私は、どうしたら打てるようになるのか「考える」、上手くボールをさばけるようになるにはどうしたらいいのか「考える」、積極的な走塁とは何なのか「考える」、チームの雰囲気良くするための声かけとはどんなものなのか「考える」など、たくさんのことを考え、たくさん努力をした。その結果、技術が少しずつ上達していき、だんだんと自信を持ってプレーをすることができるようになっていった。「考える」とはこういうことなのか。少年野球時代は、この「考える」という言葉や、周りの人たちにたくさん助けられた。

中学三年生になった今、私は女子の軟式野球チームの背番号十を付けている。まだまだチームをうまくまとめることや、試合に勝つという経験は乏しい。しかし、「考える野球」を意識して、チームの目標である「公式戦一勝」につなげていけたらいいなと私は思う。

今年の夏の甲子園で、高校球児が泥だらけになりながらも白球を追いかけている姿を見て、強く心を打たれた私は、高校でも野球を続けたいという気持ちがさらに高まった。女子は甲子園に出られないんだと散々言われてきた。最近になって女子の甲子園が盛り上がり上がっていると聞いた時は、とても嬉しかった。来年も高校球児たちが輝く甲子園を楽しみにしている。そして、もっと女子野球が広まってほしい。私も、大好きな野球を続けていきたい。

◆ 入 選 ◆

森林を守る第一歩

川越西中学校

一年

はせべりお
長谷部 莉央

皆さんは、間伐材という言葉を知っていますか。先日、私は間伐材を使って小物入れを作りました。木の良い香りがして温かみがあり、とても気に入っています。間伐材とは、森林の成長過程で密集した樹木を間引き、その過程で発生する木材のことをいいます。間伐することにより、光が地表に届き、木の成長を促します。豊かな森林を持つ日本は、世界有数の森の国です。ところが、間伐もなく放置されている森林が多いと知りました。森林を育て、森林が持つ大切な役割が生かされるよう、私たちの手で守ることが必要だと考えます。

そこで、自分は森林のために、具体的にどのような行動ができるのでしょうか。自分自身には大きな問題のようにも感じてしまいましたが、博物館の方の話を思い出しました。同じように見える葉でも、ちよつとした違いがあり、間違い探しのように教えてくれた話は、興味深かったです。葉や木を好きになれば、森を訪れるきっかけになると伝えたのだらうと思います。身近な森を知ることが森林を守る第一歩、という言葉が、その時印象に残りました。

まず森林を守る第一歩として、埼玉県の森林について知りたいと思いました。埼玉県は、県全体のおよそ三分の一が森林です。多くは奥秩父地域の森林で、動植物が多く生息し、原生的な天然林は国立公園として保護されています。飯能市などの奥武蔵地域は、スギやヒノキが多い人工林で、江戸時代には入間川を通じて江戸の町に運ばれ、それらは西川材と呼ばれたそうです。他にも、寄居町や旧神泉村では、地域の人々が間伐など、森林の整備を行い、

森林の働きを促して水源の維持に努めています。このように、埼玉県は人の近くにある森林が多く、人々の暮らしは森林と共に歩んできたと考えることが出来ます。

また、小学生の時に社会科見学に行った三富地域も、木と共に生活していたことを思い出しました。三富地域は区画を家、畑、雑木林で構成し、クヌギやコナラの落ち葉堆肥や薪を生活の中に取り入れています。人手を補うために、今ではボランティアにも参加してもらいながら雑木林を管理していると、当時、教えてもらいました。

現在、国産の木材よりも海外の安い木材を求めることが多かったり、林業の人手不足であったり、森林を守る意識が持ちにくいのではないかと思います。見もあると思います。確かに急に生活や身の回りのことを変えることは難しいですが、まずは身近な森林を知ることならば、取り組みやすいのではないかと思います。そして、知識が広がれば、私が小物入れを作るのに間伐材を使ったように、そこから少しだけ行動に移して役に立てることもあるのではないかと思います。

森林は、木材としてだけでなく、酸素を供給したり、雨を蓄えたり、日々大切な役割を果たしてくれています。森林を守ることとは、地球で暮らすたくさんの生き物を守る、つまり、未来の地球を守ることにつながります。小さな一歩かもしれないが、これからも身近な森林を知り、自分出来ることを見つけて守っていききたいと思っています。

◆ 入 選 ◆

祖父の挑戦

秀明中学校 二年 岡山 芽未

おかやま めいみ

「人生は一生勉強だ」と言うが、私の祖父は本当にその通りに生きている。本業を引退した今も、資格の勉強や読書、家庭菜園といつも何かしらやっている、器用で物知りでおおらかな祖父が私は大好きだ。

田舎に生まれ、大自然の中で遊びながら成長した彼は、整形外科医になり、たくさんの人が再び歩けるよう毎日何例も手術をした。仕事への情熱とセンスが並外れていて、執刀を続けながら国立大学の学長も務めた。技術だけでなく患者さんとのコミュニケーションを大切に、病室に声をかけに行く時間を日々作っていたらしい。そんな多忙を極める仕事人間に、少し時間が出来た頃に初孫の私が生まれたそうだ。

子育てを全て祖母に任せてきたらしい彼は、恐る恐る乳児の私をお風呂に入れ、その膝を私の指定席にするうちに私達は大的仲良しになった。歩けるようになると公園遊びに始まり、運動や勉強にたくさん付き合ってくれた。いつもよく見て褒め、一緒に喜んでくれたし、体調不良で泣いてしまったときは「大丈夫、みんながついてるぞ。」と励ましてくれた。

祖父は本当に物知りで、一つ質問すると長い話が始まる。なぜそんなに知っているのか、いろいろなことができるのか、成長するにつれて分かってきた。何をするにもたくさん本を読み、分かるまで調べ、考え、人に聞いたり教えたりしている。そして、自分で動いて実践を重ね、試行錯誤の中で精度を上げていく。さらに、圧倒的な経験値を積んでいるのに見直しを忘れない。

知的好奇心や根気はもちろん、その中で常に前向きな態度で場の雰囲気を保っていることに一番驚いた。おそらく今までたくさん壁にぶつかりそうになったのだろう。少しずつ家事や孫の育児を手伝うようになった姿からも、苦手なことにも新しい挑戦を続けているのが分かる。好きだったお酒を飲まなくなり、体を動かして健康に気を付けて過ごしている。人は何歳からでも自分次第で変わるし、何かを始めるのに遅すぎるということはないのだと身をもって教えてくれている。

そんな祖父にも、説明が止まらなかったり、聴く側になると耳が日曜日になっていたり、興味が持てないことは完全スルーと欠点も多々あるが、完璧でいなくてもいいんだよと示してくれているようにも見える。

とても超えられない大きすぎる背中にプレッシャーを感じつつ、そんな人の孫であることは、私にとって希望の光でもある。最近、いろいろな場面で「中学時代の祖父ならどうするだろうか。」と考える。彼も悩みながら成長したはずで、今でも迷うことがあるかもしれない。私が、祖父に相談してもらえて力になれる日が来るのは、いつだろうか。今のうちに「晴耕雨読」を楽しみながら、ずっといつまでも祖母と仲良く元気でいてほしい。

私は祖父のような大成功を遂げられる自信が全くないけれど、あの絶対的安定感のある温かさ、いくつになっても謙虚に学ぶ姿勢を、何代も後まで伝えていくぞと固く誓っている。そしていつか、ほんの少しでも祖父の背中に追いつけるよう、私なりの挑戦を続けていくつもりだ。

◆ 入 選 ◆

孤独と自立と一人の時間

秀明中学校 二年 秋本 梨央奈

あきもと りおな

皆さんは「孤独」という言葉にどのようなイメージがありますか。ネガティブなイメージを持つ人が多いのではないのでしょうか。それに対し「自立」という言葉のイメージはどうでしょうか。「孤独」と「自立」という言葉を辞書で調べると、「孤独」は、頼りになる人がいなく、ひとりぼっちで寂しいことという意味で、「自立」は、ほかの助けや支配なしに自分一人の力だけで物事を行うこと、ひとりだちというポジティブな意味が書かれています。一人は一人でも、ネガティブとポジティブとでイメージはガラリと変わります。

私は、小学生の中学年から最近まで、一人になることがとても怖いと思っていました。それゆえ、なるべく友達関係も崩さないように努力してきました。でも、あることがきっかけで、私は一人ぼっちになってしまったことがあります。その時の私は、心の中が真っ暗で不安で、とても寂しいと思う日々を過ごしていました。

そんな時、ある一人の同級生が、私に声を掛けてくれました。彼女は、特定の人と群れるタイプではなく、自分自身を大切にし、毎日を有意義に生活しているように私には見える、優しく芯のある人です。私は彼女に、「一人でいるのって寂しいよね?」

と聞きました。すると、彼女はこう言いました。「大丈夫。寂しくも怖くもないよ。だって、楽しだね。周りの人に気を遣いすぎると疲れちゃうでしょ。」

この言葉を聞いて、私は、はっとしました。私は「一人」というワードを勝手にネガティブな「孤独」に変換してしまっていたんだなど。きっと彼女

は、「自立」をするための行動をとっていたんだなど。

私に通っている秀明中学校は、全寮制の学校です。お互いに共同生活をしているので、分かち合える部分、すれ違う部分があります。その中で一人になった時、己を見つめなおし、改めて自立とは何かを考えることが大切だと今は感じています。自立を目指す中で、寂しく思うこともあるかもしれませんが、でも、ここは一人でいる有益さを考え、あえてその時間を楽しんでみようと思います。私は寮生活を通し、一人でいる時間の大切さを知ることができたのだと思っています。

これらの経験から私がかかったことは、「一人になる」とは、孤独で寂しいという考えではなく、むしろ、自分の心を自由にし、自分自身の内面に向き合い、自分の価値観や信念を養う絶好のチャンスなのだという事です。例えば、自分の好きな本に没頭することや、自分の好きなことや物について夢中になれる時間を作ることなど、自分が自分らしくいられるような、心に負担のないポジティブで健康的な孤独は、意外と楽しくて充実しているのではないかと思います。

「一人」を恐れることなく、周囲の人や状況に振り回されず、自分の心を大切に自己理解を深め、自分の信念を貫くことができる強い人間になることを私は目指したいです。

そして、無理なことを、本当は嫌なことを演じなくてもいい、自分が自分らしく、あるがままでいられる状態は、自分の人生に対する満足感を高めることができるのではないのでしょうか。

私の人生の主演は、私しかないのですから。

◆ 入 選 ◆

自分を考える

これについてどう思いますか？多様性という言葉が浸透している世の中、このように問われることが増えた。しかし、自分の考えを持つことが重要だと思うと同時に、難しいとも感じる。私は、この問いを投げかけられた時、咄嗟に他の人がどう思っているのか気にしてしまう。何かの作品に触れた時、私はここが好きだったというところが、誰かにつまらないなどと批判されているのを聞くと、ああそうなのかもしれない、と自分の感想を突き通すことができない。私はここがいいと思ったところを、幾らかの人々は、そこを気に入るのは考えが浅い、作品の表面しか見ていない、という。考えが浅いと思われたくない私は、彼らに同調して批判的な意見を持つ。そうしていくうちに、自分が何かの作品に触れたとき、どんな感想を持てばいいのか悩むようになってしまった。

これは、インターネットの普及による障壁の一つなのではないかと思う。インターネットの掲示板やコメント欄は、だれでも匿名で作品の素晴らしさについて正直に語ることができる。一方で、作品に対する批判も大量に集まる。そして、それは誰でも閲覧することができる。こうして作品に対して、様々な視点からの意見が集まることで新たな発見をし、さらにその作品を気に入るようになることがあるのは、利点の一つだ。しかし、今まで大好きだった作品が誰かに猛烈に批判されているのを見ると、たった一人の意見だったとしても、心にシミを残すことになる。

私はもともと、誰かが趣味で作った創造物を見るのが大好きだ。音楽でも、絵でも、書道でも、立体作品でも、たとえその趣味が自分の趣味と関係がなかったとしても、製作者の愛のこもった作品はその人のこだわりがひしひしと伝わる。また、その作品によってその嗜好に興味を持つこともある。もし、私の創造物によって、誰か一人でも興味をもって同じことを始めてくれたら、

自分の好きなことが相手に伝わったことが、たまらなく嬉しいだろう。だからこそ、自分が何が好きで何が嫌いか、何を面白いと思う何をつまらないと思うか、自分の考えでそれを明確にしたい。それなのに、他人の意見を聞かないと自分の感想に自信が持てない。

ところが、最近私が変わるきっかけとなる人が、身近にいたことに気がついた。その人は、私とその作品が好きでいいの不安になったような批評の書かれた作品を、何の躊躇いもなくここが好き、面白いと話してくれるのだ。好きなものに触れるのに、他人の意見は関係ない。私は、その人の素直さと、他人の目を気にしない自由さを見習いたいと思った。

このような、作品への評価のことに限らず、私たちは、いま生きている日常の中の様々な場面で、自分の意見、感想を明確に述べる準備ができているだろうか。表向きには無難なことを言う必要がある場合もあるかもしれない。しかし、自分の内側にある考えや意思が他人に流されてしまっただけではないと思う。誰かの意見に振り回されるのは、きっと自分に自信がないからだ。もちろん、人の意見を聞き、受け入れることでいい結果になることも多い。それを踏まえて、自分の考えを素直に伝え、相手の意見を受け入れることも大切なのだと思う。

自分の気持ちを正確に言語化し、相手に理解してもらう。これは、きっとやろうと思っても難しいことだと思う。私たちの感情は、時に忖度を図るからだ。あなたの考えは未熟だと言う人がいるかもしれない。それでも、その未熟な考えを言葉にするべきだろう。混じり気のない正直な気持ちを伝える、相手に納得してもらおう。そうすることで、自分が自分であることを誇りに思うようになるのだと思う。

秀明高等学校 一年 吉澤 あい

よしざわ

◆ 入 選 ◆

限り

秀明高等学校

二年

富澤 心暖 とみざわ し の

近年、昔に比べてインターネットが身近な存在となってきました。防犯のためだったり、ご褒美だったり、様々な理由で携帯電話やパソコンなどのツールを持っているのでしょう。携帯会社ソフトバンクの調査によると、十三歳から十九歳までのスマートフォン保有率は、約九十三パーセント。インターネット利用率は、約九十五パーセント。ともに九割を超えています。

携帯端末の普及により、X（旧Twitter）やライン、インスタグラムなどのSNSが広まりを見せています。昔よりも簡単に、遠くの人と話せるようになりました。手紙や葉書を送ることは少なくなり、ラインやダイレクトメッセージなどで、すぐに返事が返ってくるようになりました。いつだって、どこにいたって、画面の向こう側に誰かがいて。私はインターネットによって人との距離が近く、また、とても遠くなったとも思っています。

家でも電車でも、どこに行っても、スマートフォンなどの携帯端末を触っている人を見かけます。動画を観ていたり、どこかの誰かと連絡をとっていたり。その光景を見ると、一つ気になることがあるのです。画面にばかり注目して、目の前の人とはしゃべらないのかな、とか。お礼や挨拶もしないのかな、とか。最後に家族と話したのは、目を合わせたのはいつですか。ありますか。とうや大好きだと、毎日伝えられていますか。画面とばかり見つめ合ったり、話したりしていませんか。私は、そういったところに、人と人との距離が遠くなってしまうと感じます。

私は、中学二年生のとき父が他界しました。交通事故でした。あまにも急な出来事で、茫然自失となっていたことを覚えています。なかなか父がいなくなったことを認められず、一人お風呂で泣いたこともあります。ようやく受け入れられたと思ったら、次は深い後悔におそわれました。学校での出来事や友人の話など、他愛のない会話で笑い合っていた。もっとありがとう

や大好きを伝えればよかった。夜更かしなんてしてなければ、父に「おはよう」と、「いつてらっしゃい」と言えたのに。スマートフォンよりも目の前の父との時間を、会話を大切にしていたと胸を張って言えたのなら、こんなにも深い後悔を抱くことはなかったでしょう。私が最後に父と交わした言葉は、「おやすみ」でした。

人は、大切な存在が明日も明後日も、何十年未来でも生きているものだと思うものです。漠然と思うそれは、でも全然そんなことはなくて、いなくなっ
て初めて、後悔して初めて気づくものです。もっとお話がしたかった。もっとお出掛けしたかった。もっと、もっとと……。もっと一緒にいたかった。それでも、後悔してからでは遅いのです。後悔しているということは、失ってしまったあとだから。

家族も祖父母も友人も。もちろん自分だって。明日生きている保証はありません。次の瞬間には隣からいなくなっているかもしれない。次会うときは、その人の暖かさがなくなっているかもしれない。そのもしもが起これば、まった時の後悔を少しでも軽くするために、言葉があります。行動することができます。ありがとうや大好き、愛していると伝えてください。一緒に出掛けたり、お手伝いをしたり。私たちの年齢では反発心や恥ずかしさからなかなかできないと思います。そんな時は、手に持っているスマートフォンを置いて、五分だけでも目の前の人と話してみてください。

繰り返しになりますが、最後に家族と話したのは、目を合わせたのはいつですか。感謝や愛情は伝えられていますか。いつかの別れに後悔をしないためにも、限られた時間や言葉を大切に。私も、限られた時間たちを大切に今日を生きていきたいと思います。

◆ 入 選 ◆

「人生は出会いで決まる。」

秀明高等学校 二年 原島 沙英

はらしま さえ

最近私は、周囲の人に助けてもらう場面が増え、そんな人たちと出会えたことを宝物のように感じています。皆さんには、「出会えて良かった。」と思う人はいますか？

「春は出会いの季節」という表現がありますが、私は春夏秋冬、いつでも出会いの季節だと思っています。それは、相手の意外な一面を知ること、もう一度その人と出会うことと同じだと思うからです。

以前、クラスメイトと「明日世界が終わるとしたら何をするか。」という話題で盛り上がった時、新しい発見がありました。世界旅行をしたい、などと言う人もいる中、ある友達が、

「私は明日死んでも大丈夫。毎日後悔なく生きているから。」

と、真剣な顔で言いました。毎日を大切に、全力で生きている人にしか言えないセリフに、格好いいなと思いました。

八十年の人生だとすると、一生のうちで、学校や仕事を通じて近い関係になる人は三千人、親しい会話ができる人は三百人、友達と呼べる人は三十人、親友と呼べる人は三人だけと言います。秀明には全国から生徒が集まっています、この学校に入らなかつたら一生知り合うこともなかったはずの人が、大勢います。価値観のズレは当然ありますが、たくさんのお好きな友達に囲まれ、毎日楽しく学校生活を送れています。この五年で、親友と呼べる人も三人以上できました。迷った時には導いてくださる先生方、気にかけてくださる先輩方、話しかけてくれる後輩たち、秀明での出会いは特に、数えきれないほどの偶然が重なってできていることを、最近ひしひしと感じています。この学校に入学したことが、私の人生の中でとても大きなポイントです。

また、「出会い」というのは、人に対してだけ使う言葉ではありません。ある先生は、一冊の本と出会って考え方が大きく変わり、ポジティブでいられるようになった、と仰っていました。例えば、何か忘れ物をして痛い目を

見たとしても、その経験から、「どうすれば忘れなくなるか。」解決策を探し出せばそれでいい、という考え方だそうです。私は、この思考パターンを共有してくださったその先生に、出会えて良かったなと思います。

さらに、「ポジティブでいるためには、ネガティブであり続けること。」と言った人もいます。これは、結局人間は、「ポジティブだったら、こう考えるんだけどなあ」と、ネガティブでいる時の方が「ポジティブ」のことを考える時間が長い、ということからきているそうです。すぐにネガティブ思考になってしまいう自分が嫌いだった私にとって、この言葉との出会いは、自分を変えるきっかけになりました。今では、ネガティブな性格も自分の長所だと思っています。

また、幼い頃から続けてきた習字やピアノとの出会いは、特別なものでした。「継続は力なり」、長く続けていなかたなら得られない感覚がありました。字を書くとき心が落ち着きます。吹奏楽部への入部も、ピアノを習っていたことが決め手の一つでした。今では部活やそのメンバーが大好きで、嫌なことがあっても忘れられる、居心地の良い空間になりました。習い事や趣味との出会いも、自分を大きく変えるのだと実感しています。

かつて、ユダヤ人哲学者のマーティン・ブーバーは「人生は出会いで決まる。」と言いました。今の自分を作るのは、間違いなくこれまで出会ってきた全てです。出会いはいつも、自分に何らかの影響を与えてくれます。もちろん「出会い」にはいろいろな種類があり、良い出会い、悪い出会いなど様々です。しかし、それを判断するのはきつと、ずっと先の話です。その出会いで自分をどう変えるか、それが何よりも大切だと思います。

どんな出会いも「一期一会」の出会いです。これからの将来、全ての出会いに感謝して、様々なものに触れ、視野を広げていきます。

【選評】

審査員長 川越市青少年を育てる市民会議 副会長

岡本 紘子

「川越市少年の主張作文」は、川越市青少年を育てる市民会議・川越市・川越市教育委員会が主催する作文コンクールです。当コンクールは、青少年が日常生活の中で考えていること、感じていることを広く社会に訴えることにより、同世代の青少年の意識啓発と、青少年の健全育成に関する大人の理解・関心を高めることをねらいとして、昭和六十二年度から実施されています。

歴史ある当コンクールに、今年度は、千四百四十編（中学生の部から千四百七編、高校生及び一般の部から九十三編）というとても多くの応募がありました。その中から、審査の結果、中学生の部から十三編、高校生及び一般の部から三編の合計十六編を選作品に決定いたしました。

応募作品のテーマには、「部活動」「人と人のつながり」「家族」といった身近なものから、「SDGs」「戦争と平和」など、世界中が関心を寄せる話題に目を向けたものまであり、様々なテーマから自分の意見をまとめたものが多く見られました。社会問題が多岐にわたる現代において、これからの未来を担う青少年の皆さんが、広い視野を持って行動したり、悩み考えたりしていることがひしひしと伝わってきました。

入選作品の内、上位四作品は次の通りです。

最優秀賞 嘉手川 葉名さん 『音楽とともに』

優秀賞 長島 恵斗さん 『正しく恐れる』

優秀賞 北方 那奈美さん 『作られたカテゴリーを超えて』

優秀賞 平野 愛佳さん 『助け合いの輪』

最優秀賞になった嘉手川葉名さんの『音楽とともに』は、自分が大好きな音楽には、人と人を繋げる力がある、ということをも自分自身の経験を通してしっかりと伝えていました。吹奏楽部として演奏した時の高揚感、演奏の楽しさだけでなく、自分たちの音が、聴いている人の気持ちも動かしていることを実感したところも合わせて表現されており、音楽の力がいかに素晴らし

いか、私たちに再認識させてくれるとても良い作品でした。

優秀賞の長島恵斗さんの『正しく恐れる』は、地震や災害後の対応力などを指す「災害レジリエンス」について深く考え、地震やコロナ禍で身近に起こった買い占めなどの騒動から、非常時こそ、思いやりの気持ちをもち、正しく恐れることが大切だ、と私たちに説得力を持って強く訴えかけてくるものでした。

優秀賞の北方那奈美さんの『作られたカテゴリーを超えて』は、無くない差別や偏見についてアメリカでの実体験が描かれ、世界には同じ人なんて存在しない。文化や人種が違ってても、互いを正しく理解することが大切だ、という文章は、世界に向けて発信できる素晴らしい主張だと感じました。

優秀賞の平野愛佳さんの『助け合いの輪』は、自分がたくさんの人に助けってもらったという経験から、人はたくさんの人に支えられて生きていることを感じ、自分自身も人を助ける一歩を踏み出したという気持ちが芽生えたことを丁寧に伝えていました。たくさん人の助け合いの輪が広がっていく社会になることを願わずにはいられません。

他の入選作品も、日常の身近な実体験を通し感じたことを題材に、青少年らしい主張が伝わる作品が多く見られました。中学生は、体験や見聞を通して感じた思いを素直に綴っていました。高校生は、語彙力や言葉の使い方がうまく、年齢を重ねることによる文章力の向上や、思考の深まりを感じました。社会に対して感じる疑問や課題に気づいた時、批判にとどまらず自分の考えの変化や行動につながっている作品には、説得力がありました。青少年の皆さんは、この作文集を通して、同世代の青少年の主張に触れ、自らの考えを深化させてほしいと思います。

青少年たちは日々さまざまなことを感じ、考え、自分の思いを深めています。彼らの心のうちの思いを真摯に受け止め、さらにより良い社会を築くために、皆様にご一読いただければ幸いです。